

# 田中邸が「下田登録まち遺産」に加わりました

平成 29 年に「下田まち遺産」として認定されていた田中邸がこの度、所有者の同意をいただき、「下田登録まち遺産」となりました。明治初期に建てられたもので、母屋はなまこ壁、蔵や塀は伊豆石が主。庄屋の名残を見せる佇まい。現在も住宅として活用されています。その建築的特徴や実際の住まい方などを聞きました。



田中邸の蔵。一階部分が伊豆石を縦に並べているのが特徴

## 田中さんから建物の特徴を聞きました

### 地震にも強い構造と裏山から切り出した伊豆石

大黒柱・小黒柱、それから梁は、たくさんの木が組み合わさってバランスが釣り合い、釘が使われていません。揺れを分散する造りになっていると思います。敷地を囲んでいる伊豆石の塀は特徴があります。家の背後から伊豆石を切り出しており、地産地消そのものです。他にも蔵の全面に使われており、壁の内側には防火材としても積み上げられていて、ジオ(大地)の恩恵があります。

### 数種類の木材を適材適所で使う知恵

松材やケヤキなど近くから切り出したものでしょう。場所によって使い分けているようです。同じケヤキを柱に使ったり板敷に使ったり、知恵を絞ったようです。蔵などは曲がったままの木材がそのまま使われています。

### 今と昔の住まい方のギャップに苦慮

冠婚葬祭や豊作のときのお祝いなど、何かあると集まった場所だったので、襖を外すと広間になるようになっています。電話の声が筒抜けだったり、テレビがうるさかったり、プライベートはあまりないのが現状です。昔は囲炉裏で火を焚いたので、家中燻されて虫がつかなくなったそうです。今は害虫駆除をしっかりやらないと、いつの間にか家が傾きだした、ということになりかねません。

## 所有者からのポイント



母屋となっている建物、1階の壁は2回の地震でなまこ壁が崩壊に保存されています。



敷地を囲む石塀と門を挟む石柱、修復のために一度積み直されています。



母屋の天井を見上げると、大きな梁が組み合わさって、大きなミシンク

認定まち遺産・登録まち遺産とは  
認定まち遺産は、まち遺産の中から、市民会議の意見を経て認定したもの。下田まち遺産として市で広報などをします。「登録まち遺産」は認定まち遺産の中で所有者が「今後も残していく」という同意があったもの。維持修繕等で市が補助をします。

# 下田市景観まちづくり市民会議 新しい委員さんを紹介します

平成29年にご家族で下田市に移住されてきた津留崎鎮生さん。移住する際に様々な下田の人々と触れ合っていくなかで、「下田市景観まちづくり市民会議委員」を募集していることを紹介され、自分の経験を活かせると感じ、応募されました。そして平成30年2月、市民会議委員として委嘱を受け、活動を開始されました。今回は、津留崎さんの下田まち遺産に対する思いなどをお聞きしました。



つるさきしずお  
津留崎鎮生さん

昭和49年生、東京都出身。東京の設計事務所に勤務し、住宅の設計業務を経験。現在は、市内の工務店、養蜂場に勤務するかたわら、ウェブマガジン「コロカル」にて移住の経緯や下田市内での生活について連載をしています。

「下田市景観まちづくり市民会議委員」とは  
下田まち遺産の活用方法などを審議していただく方で、現在は津留崎さんを含め11名にお願いしています。

## 津留崎さんオススメ 下田まち遺産

### 大賀茂れんげ祭り

毎年4月にれんげ祭りを開催している田んぼをお借りして米作りに挑戦しています。下田市でも耕作放棄地問題などがあることを知りましたが、子育て世代として、子ども達と一緒にお米を作るのはとても良い体験になると思います！



れんげ祭りが行われる4月にはれんげの花が咲く田んぼの上を鯉のぼりが風でなびいています

## 津留崎さんに一問一答

### 景観まちづくり市民会議委員として考える 下田の大切なことって？

観光客など、外からの目線で下田に価値を持たせていくことだと思います。今年度、海の家を民間委託した、というニュースを聞きました。以前は地元の方が直接運営されていたそうですが、ニーズに合わせて変えていくことも下田にとって大切なことだと思います。

### 今後、景観まちづくり市民会議委員として 下田市に期待することは？

実際に下田で生活していくなかで、自分たち自身がまちなみや自然風景に気持ちよさを感じられると、暮らしの質が自然と上がっていくと思います。その価値が上がっていくと、移住者も観光客も増えていくのではないかと感じています。

## 編集者まとめ

ほぼ同世代の津留崎さんと、「僕たちが子どもの頃にはインターネットもなくて情報が少なく、何が良いものなのか、本物なのか気づきにくかったけれど、今の世代はすぐに情報を手にすることができ、目が肥えていますよね」という会話になりました。世の中がどんどん変わっていくなか、本当に大切なもの、残していきたい「下田まち遺産」をしっかり委員の皆さまとともに考えていきたいと思っています。